

◆北京オペラ ~Peking Opera~

京劇のことを英語では北京オペラといいます。京劇を観ることを北京では聴戲チンキといいます。今回は“オペラ”を主とした演目を集めました。どうぞじっくり唱を聴き、磨かれた做功ワウコウとせりふ回しをお楽しみください。

◆専場とは

京劇のリサイタルといったイメージがわくでしょうか？

ただ、中国では著名な俳優が生涯に一度、せいぜい二、三度実施できるほどのビッグイベントで、一人の俳優がその公演の主役をすべて演じる形式で上演されます。異なる役を一人で演じ分けるため、俳優は高い力量が求められます。観客にとっては、ひいきの役者の芸を堪能できるまたとない機会です。

Profile

袁英明 Yuan Ying ming

京劇俳優養成の最高機関である北京の中国戯曲学院に学び、首席で卒業。その後上海京劇院主演女優・トップスターとして活躍。専門は女性役の青衣および花旦ハクタン。16歳で全国優秀青年代表に選抜され、「中国戯曲家協会」に当時最年少の会員として選ばれ、「全国優秀青年俳優賞」、京劇テレビ連続ドラマによる「黄河杯」グランプリなど受賞多数。来日後、京劇公演活動を定期的に続ける一方、宝塚歌劇団やハワイ大学にて演技指導、また桜美林大学演劇講座、慶應義塾大学、創価大学中国語講座の人気講師として幅広く活躍している。日本演劇学会会員。早稲田大学大学院アジア太平洋研究科修士。

殷秋瑞 Yin Qiu rui

10歳より京劇俳優養成の最高機関である中国戯曲学院の附属中学にて学び、中国の戯曲教育における第一期大学卒業生となる。専門は花臉ハクレン（顔全面に濃厚な隈取を施す役）。卒業後は、中国京劇院に入団し、多くの名優たちと共演、豊かな表現と張りのある美声をもって文戯と武戯の双方を巧みにこなす。1990年に来日以降、数多くの舞台を踏み、海外公演（フランス・アヴィニョン演劇祭、1998）にも参加した経験を持ち、今年の「中国中央テレビ放送局春節戯曲晩会」にも出演。桜美林大学客員講師。中国戯曲家協会会員。

Story

《坐宮》『楊家将演義』より《四郎探母》の一節

宋代。宋の武将楊延輝（楊四郎）は運悪く敵国・遼の捕虜になってしまった。彼は名前を変えて正体かくし、遼国王の娘・鉄鏡公主と結婚した。十五年後、楊四郎は母・佘太君が国境近くまで来ていることを知り、ぜひ母に会いたいと思ひなやむ。鉄鏡公主は夫の様子を見て心配し、その原因を聞きただそうとする。ようやく夫の悩みと身の上を知った公主はたいそう驚くが、必ず戻ってくると誓わせ、四郎のために国境の通行許可証を盗んで、母との再会を助けする。

《探陰山》『三俠五義』より

宋代。灯籠祭りの夜、見物に出かけた少女・柳金娘は、無頼漢の李保に手込めにされ絞殺される。李保はその罪を書生・顔査散に着せ、逃走する。捕らえられた顔査散は包拯（名裁判官）に無実を訴える。包拯は自ら冥界へおもむいて「生死簿」を調べ、更に油流鬼の協力を得て、「生死簿」が書き換えられている事実をつかんで、顔査散の冤罪をはらし、李保を逮捕して絞首の刑に処した。

《殺惜》『水滸伝』より

宋代。梁山泊の英雄・宋江がまだ山東の役人だった頃の物語。宋江は梁山泊の頭目・晁蓋から託された手紙を受け取って帰る途中、妾・閻惜姣の母に会い、むりやりその住まい烏龍院に連れていかれる。翌朝、烏龍院をでた宋江は、晁蓋の手紙を烏龍院に忘れたことに気づいて引き返し、閻惜姣に手紙を返してくれと再三たのむ。宋江の目を盗んでその部下・張文遠と密かに通じ、折あらば宋江の落ち度を見つけ、二人で夫婦になろうとその機をうかがっていた彼女は、手紙を返さないばかりか、これを証拠に役所へ訴えるという。宋江は、もうこれ以上我慢できず、ついに閻惜姣を殺してしまう。

《李逵探母》『水滸伝』より

宋代。李逵は梁山泊に身を投じた後も、故郷に残してきた老母のことが気掛かりであった。彼は頭目の宋江の許可をもらい、母を迎えるため故郷に帰ってくる。我が家に着いてみると、母は李逵のことを思い、心配の涙を流しすぎて、盲目になっていた。兄は評判の無頼もの、李逵が戻ってきたら、お上に密告して、賞金を貰おうと企んでいた。李逵はそれと察し、すぐ母を背負い、梁山泊へと向かうのであった。

《貴妃醉酒》

唐代。楊貴妃（楊玉環）は玄宗皇帝の寵愛を一身にあつめていた。ある日、皇帝は楊貴妃と百花亭で酒宴を催す約束をする。翌日、楊貴妃は百花亭で準備を整えて皇帝のお越しをまつが、なかなかお見えにならない。やがて、皇帝は西宮の梅妃のもとへおもむいたとの知らせが届く。約束を破られた楊貴妃は、高力士、裴力士の二人の宦官や女官たちを相手に、悔しさと虚しさを酒にまぎらせ、寂しく宮殿へもどって行くのであった。

袁英明 専場 殷秋瑞

◆在京劇名優競演◆

【出演】

袁英明
殷秋瑞
杜鵬
陳端
寇然
張菊会
張清恵ほか

※出演者、演目は変更になる場合がございます。ご了承くださいませ。

【楽師】

耿連軍
邱雪痕
葉向東
王懷良
金虹
洪剛
錢騰浩
費堅蓉
林蓉暉
王新徳

【司会】

山下輝彦（慶應義塾大学教授）

山下理美

【舞台監督】

富田正久

【翻訳】

吉田登志子

【デザイン制作】

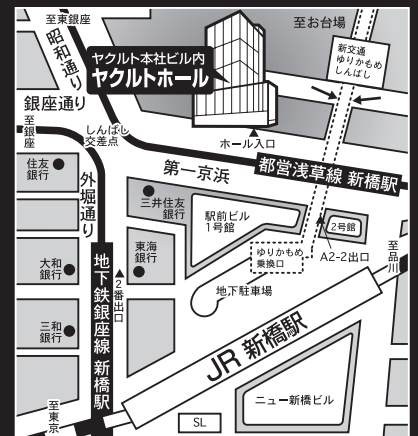
大島啓子

【企画統括】

高木実枝子

神原潔子

<会場案内図>



ヤクルトホール

〒105-8660 東京都港区東新橋1-1-19 ヤクルト本社ビル
TEL.03-3574-7255

- JR JR新橋駅より徒歩5分。
- 地下鉄 都営浅草線新橋駅A2-2出口より徒歩1分。 都営浅草線新橋駅2番出口より徒歩3分。
- 車 第一京浜（国道15号）新橋交差点すぐ。 首都高速汐留出口より昭和通りを新橋方向へ。 ※当ホールに駐車場はございません。